

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
中心市街地地区

平成30年12月

北海道函館市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	歩行者通行量	人	40,416	41,000	45,551	確定 ●	○	あり	43,465	H30年6.7月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	市街地再開発事業などにより、良好な市街地環境が整い、また、公共施設の整備や案内機能の向上などにより、中心市街地の往来が増えた。
指標2	イベント開催数	回	45	51	57	確定 ●	○	あり	64	H30年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	商店街等によるイベント開催に加えて、新たに整備された公共施設において継続的にイベントが開催されるなど、新たな賑わいの創出につながった。
指標3	本町・五稜郭地区への来街頻度	%	21	26	19.8	確定 ●	△	あり		H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	目標に達していないが、優良建築物等整備事業により共同住宅や集客施設が整備され、居住人口や施設利用者が増加しており、一定の効果をあげている。
指標4	函館駅前・大門地区への来街頻度	%	10.8	20	12.4	確定 ●	△	あり		H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	目標に達していないが、市街地再開発事業により共同住宅や集客施設が整備され、居住人口や施設利用者が増加しており、一定の効果をあげている。
指標5						確定 ●		あり		H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	中心市街地内の路面電車の乗降人員数	人	9,929	/	10,903	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	集客施設の整備や路面電車を利用しやすい環境を整えることにより、観光客をはじめとした路面電車の利用増加につながっている。
その他の数値指標2			/	/	/	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3			/	/	/	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	新たな賑わいの創出	・商店街や町内会、まちづくり会社などの協力のもと、地域住民と外国人観光客が交流し、楽しめる日本文化の体験イベントとして、「はこだて夜祭りinグリーンプラザ」を実施した。	・開催期間3日間の来場者数は、約5,800人でうち約800人の外国人の来場があった。 ・外国人観光客の動向としては、「浴衣レンタル」、「金魚すくい」など体験型の催しが人気であった。 ・地元市民からは、「盆踊り」の実施が好評で、毎年の実施を望む声があがっていた。	・整備した集客施設については、引き続きソフト事業の展開など創意工夫を図りながら、新たな魅力を創出していく。 ・賑わいを拡大させていくためには、行政ばかりではなく、商店街、まちづくり会社等が主体となることが重要であることから、連携を密にするとともに、支援も行っていく。
	商業機能の強化と周知	—	—	・市民をはじめ国内外の観光客などの消費者ニーズに応える魅力ある商店街となるよう、各地区の特性を見据えてターゲットを明確にししながら、商店街やまちづくり会社、整備した公共施設など、情報の共有も含めて連携・協議するとともに、各個店が行う様々な取組に対し支援を行っていく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	魅力ある商店街の形成	・中心市街地出店促進事業により、空き店舗等へ出店する事業者に改修費補助を実施している。	・空き店舗の解消に効果があった。	・魅力ある商店街の形成のため、消費者ニーズに応えるとともに、各個店それぞれが魅力を高める必要があることから、商店街や各個店の魅力向上の取組を支援していく。
	様々な都市機能が集約され、人々が訪れたいくなる中心市街地	・街なか居住促進事業により、賃貸住宅への移住者に対し、家賃補助を継続実施している。 ・公共施設の利用促進に向けたPR活動。 ・函館駅前地区の商店街では、地域の店舗や提携駐車場、イベント情報などを、商店街ホームページでの情報発信を始めた。	・公共施設の来館者数の増加。 ・商店街のホームページが、わかりやすく、検索しやすい内容になった。	・人口減少、高齢化社会に向け、人々が訪れたいくなる中心市街地となるよう、立地適正化計画に基づいて、都市機能の集約化と居住誘導に努めていく。 ・整備した公共施設や商店街などに人を持続的に呼び込むため、効果的な情報発信に努めていく。 ・安全・安心な歩行空間の確保のため、国が実施する函館駅前通整備の早期完了を要望していく。
	駐車場や個店の実態把握と対応策	・函館駅前地区の商店街では、地域の店舗や提携駐車場、イベント情報などを、商店街ホームページでの情報発信を始めた。 ・まちづくり会社が調査した函館駅前・大門地区の駐車場位置や料金情報などを、まちづくり会社ホームページでの情報発信を始めた。	・商店街およびまちづくり会社のホームページが、わかりやすく検索しやすい内容になった。	・自動車利用者向けの駐車場情報の提供、民間駐車場や商店街等との提携駐車場のサービス拡大、店舗情報などを記載した商店街マップの作成などを支援していく。 ・来街者のさらなる増加を図るため、乗換案内アプリによる情報の提供など、引き続き交通機関の利便性の向上に取り組んでいく。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
—	—	—	—

都市再生整備計画(清算報告)

ちゅうしんし が い ち
中心市街地地区

ほっかいどう はこだてし
北海道 函館市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	函館市	地区名	中心市街地地区	面積	200 ha
計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度	交付期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度				

目標 大目標 市民生活と歴史・文化、観光が融合した回遊性の高いまちづくり 目標1 賑わいある集客拠点の創出 目標2 新たな交流を生む都市空間の創出								
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>・函館駅前・大門地区から本町・五稜郭・梁川地区は、市役所をはじめ国等の行政関連施設が集積するとともに、JR函館駅を中心とする広域交通機能を有し、文化・芸術、スポーツに係わる施設、総合病院が複数立地するなど、市民活動や生活に係わる重要な施設が集積していることから、本市の中心市街地として重要な役割を担っている地域である。</p> <p>・平成11年5月には、函館駅前・大門地区の約48ヘクタールの区域を対象に、旧法に基づく中心市街地活性化基本計画を策定し、これまで活性化に向けた各種施策を展開してきたところであるが、長引く景気の低迷、都市機能の拡散、大規模集客施設の郊外立地、さらには少子高齢化などに伴う人口の減少等により、函館駅前・大門地区のみならず本町・五稜郭・梁川地区などを含めた新たに設定する中心市街地全体が衰退してきた。なかでも本町・五稜郭・梁川地区は、平成15年の西武デパートや平成21年のグルメシティ五稜郭店など大型商業施設の相次ぐ閉店により賑わいが低下し、中心市街地としての魅力が失われつつある。</p> <p>・函館市では、平成23年12月に「函館市都市計画マスタープラン」を策定し、今後の人口減少時代に向けた新たなまちづくりの方向性として、市街地の拡大抑制や既存ストックの活用、都市機能の集約化、公共交通の維持・充実などに取り組むコンパクトなまちづくりを進めることとしており、中でも中心市街地は地域の経済および社会の発展に果たす役割が非常に重要であると位置づけてたところである。</p> <p>・現在、梁川地区で民間マンションの建設が進んでいるほか、今後、函館駅前や本町交差点付近でも新たなマンション建設が予定されており、街なか居住の促進が進められている。</p> <p>・平成27年度には北海道新幹線新函館開業が控えていることから、市民のみならず函館を訪れるすべての人に魅力あるまちづくりを早急に進めて行く必要がある。</p>								
課題 <p>・中心市街地内の大型商業施設の閉店や、空き店舗の増加、魅力ある店舗の不足等により、市民の来街機会が減少している。</p> <p>・小売業年間販売額が減少にある中で、既存の施設だけでは集客に限界があり、中心市街地の活性化は難しいため、新たな集客力のある施設整備が必要である。</p> <p>・中心市街地には、子どもやお年寄りが利用できる公共公益施設が不足しており、街なか居住の推進や来街者増加を図るためには、子どもからお年寄りまでが楽しめる施設整備が必要である。</p> <p>・中心市街地を訪れる人が、安全・安心に歩行できる環境づくりとともに、回遊しやすい環境づくりが必要である。</p> <p>・北海道新幹線新函館駅から訪れる観光客を中心市街地へ呼び込み、街なかの賑わいを高める必要がある。</p>								
将来ビジョン(中長期) <p>・「新函館市総合計画」市街地の整備の基本方向として、中心市街地の賑わいの創出をはじめ、低未利用地等の活用や市街地再開発事業を推進するとともに、地区生活拠点の機能強化を図り、歩いて暮らせるまちづくりを進めることとしている。</p> <p>・「函館市都市計画マスタープラン」まちづくりの目標 ①歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり、②快適・安全なまちづくり、③市街地と農漁村が共生するまちづくり、④美しくうるおいあふれるまちづくり、⑤経済活動を支えるまちづくり</p>								
目標を定量化する指標								
指 標		単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者通行量		人	中心市街地内16地点における歩行者通行量の平日と休日の2日間の平均値	中心市街地における賑わいや回遊性の把握	40,416	H24	41,000	H29
イベント開催数		回/年	中心市街地におけるイベント開催数	中心市街地での交流や賑わいを把握	45	H23	51	H29
本町・五稜郭地区への来街頻度		%	市民アンケート調査による本町・五稜郭地区への来街頻度のうち「ほぼ毎日」から「週1~4回」と回答した人の割合	中心市街地への市民の来街状況の把握	21	H21	26	H29
函館駅前・大門地区への来街頻度		%	市民アンケート調査による函館駅前・大門地区への来街頻度のうち「毎日」から「週1回程度」と回答した人の割合	中心市街地への市民の来街状況の把握	10.8	H20	20	H29

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>○整備方針1 賑わいある集客拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者までが楽しめる環境づくり ・空き店舗の利活用に対する支援の充実 ・イベント等の積極的開催の支援 ・商業機能と公共公益機能が連携した施設整備の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代活動支援プラザ整備事業(基幹事業・高次都市施設) ・はこだておもしろ館整備事業(基幹事業・高次都市施設) ・はこだておもしろ館整備事業(提案事業・地域創造支援事業) ・市民交流プラザ整備事業(基幹事業・高次都市施設) ・中心市街地出店促進事業(提案事業・地域創造支援事業) ・事業効果分析調査(提案事業・事業活用調査) ・函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業(関連事業) ・函館本町地区優良建築物等整備事業(関連事業) ・函館市元気いっぱい商店街等支援交付金事業(関連事業) ・都市構造に関する基礎調査(提案事業・事業活用調査)
<p>○整備方針2 新たな交流を生む都市空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客に対する案内情報機能の充実 ・利用しやすい公共交通の充実 ・安全・安心な歩行空間の確保 ・デザイン性の高い街並み景観の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者案内サイン整備事業(基幹事業・地域生活基盤施設) ・観光等案内情報端末整備事業(提案事業・地域創造支援事業) ・電車停留所整備事業(提案事業・地域創造支援事業) ・市道ときわ通道路改築事業(基幹事業・道路) ・市道ときわ通歩道整備事業(基幹事業・高質空間形成施設) ・アーケード撤去事業(提案事業・地域創造支援事業) ・(再掲)事業効果分析調査(提案事業・事業活用調査) ・(再掲)都市構造に関する基礎調査(提案事業・事業活用調査)
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動について 中心市街地内では、(株)はこだてティーエムオーや(株)まちづくり五稜郭のほか、商店街振興組合等が独自の活動を実施又は計画しており、事業終了後もこうした活動と連携しながら、市民や観光客などのニーズに応じた取り組みを実施し、賑わいの創出に努める。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について 事業期間中の一定段階で、事業の進捗状況の精査や評価分析を行った上で、ホームページなどで情報を公開する。</p>	

